

氏名 小野 晃輝 法科大学院等の在籍年次 2年次

*このレポートは主としてこれからインターンシップに行くことを考えている人達に情報提供を行うことを目的とするものです。以下の項目について適宜行数を増やしながらかき込んでいって下さい。文字数及び頁数に制限はありません。

*このレポートは、記名で法学研究科のウェブサイトに掲載されます。もし氏名掲載を希望しない場合には、その旨をお知らせ下さい。

*重要情報についてはできる限り具体的に記載して下さい。また、後輩の方達に向けた率直なアドバイスをお願いいたします。

1 受入事務所と滞在期間

受入事務所：One Asia Lawyers シンガポールオフィス

滞在期間：2022年8月18日～9月10日

(インターン期間は8月19日～9月9日)

2 事務所の業務・構成・勤務条件及びインターンシップの内容等

事務所の業務等について

シンガポールオフィスでは、主にシンガポール国内にアジア統括会社や現地法人を置く日系企業に対する包括的な法的支援が業務となっていました。ただし、One Asia Lawyersの特徴として、日本やASEAN各国を中心として複数の国に事務所を構えていることから、シンガポールオフィスにいても、シンガポール以外の国に関わる案件に携わらせて頂くこともありました。シンガポールオフィスの日本デスクの構成は、弁護士・パラリーガル共に日本人の方が多く、数名がシンガポール人の方（英語での会話となる）でした。日本の弁護士と異なり、シンガポールの弁護士は資格上の違いはないものの、紛争系を扱う弁護士と企業法務系を扱う弁護士が分かれているそうです。そのため、日本法弁護士の先生（日本人）から頂く仕事は様々ですが、日本デスクに所属するシンガポール法弁護士（シンガポール人）の先生から頂く仕事は企業法務系でした（私が企業法務系を希望したことも大きな要因だと思います）。

勤務時間は厳格には決まっておらず、私は9：30～19：00（うち、お昼休憩は

1時間)を目安に勤務していました。私の場合は晩御飯との兼ね合いで19時頃までの勤務を目安にしていたのですが、アソシエイトの先生は18時を過ぎたらインターン生は帰るものだよと、ご親切にお声がけをしてくださいました。なお、土日は休みです。

インターンシップの内容について

非常に多岐にわたる仕事を経験させて頂きました。具体的には、契約書(日本語・英語)のレビュー及び修正・確認(review, amend, proof)を中心に、契約書の起案や記事の作成、法律文書(仲裁最終判断)の和訳、リーガルデューデリジェンス、シンガポール法のリサーチに携わらせて頂いた他、裁判傍聴やセミナーへの参加もさせて頂きました。日本におけるサマークラークとは異なり、現在進行中の案件に触れることができるのも、本インターンシップの特徴だと思います。

3 宿舎及びその他の生活環境について

宿舎について

私は、事務所までバスで40分(MRT(=地下鉄)でも40分)ほどの距離にあるホテル(Value Hotel Thomson)に滞在しました。私の場合、コロナウイルス感染防止の観点から宿泊先としてホテルを選択しましたが、金銭面を考えるとシェアハウスやホステルがおすすです。AirbnbやシンガポールのMixbで手ごろなシェアハウス・ホステルが見つかると思います。私と同時期に他大学からインターンに来ていた学部生は、サマセット(私が滞在したノベナよりも事務所に近い繁華街)にある1人部屋付シェアハウスを1カ月15万円程度で借りていました。また、過去に同じシンガポールオフィスに派遣された先輩は1カ月約7万円のホステルに宿泊なさったそうです。ホテルをお探しの方は、ゲイランで安いホテルを見つけることができると思いますが、事務所から遠いことに加えて、非常に特殊な街なので、避けることをお勧めします。

食事について

シンガポールは物価が高いイメージですが、ホーカーと呼ばれるローカル店を集めた屋台街での食事に限れば非常に安価(5~8SGD程度)で食べることができます。事務所のあるビルの向かい側には「Lau Pa Sat」というシンガポール国内でも有数のホーカーがあり、私はそこに晩御飯を食べに行くことが多かったです。

交通機関について

食事だけでなく、交通機関の料金も比較的安いです。余程辺鄙な場所でない限り、基本的にはMRTとバスが走っているので、移動に困ることはないと思います。これらの公共交通機関は「EZ-Linkカード」（ICOCAのようなもの）やタッチ決済機能付きクレジットカード（VisaかMaster）で乗ることができるので、乗り方に困ることはないと思われます。

また、日本と比べてタクシーの料金も安いので利用することがあると思いますが、ぼったくりなどのトラブルを防止するためにも「Grab」（Uberに相当するアプリです）というアプリを渡航前にインストールすることをお勧めします。クレジットカードは渡航先に着いてから登録する必要がありますが、ドライバーとのお金のやり取りを減らすことができます。

生活について

MRTの駅の周辺にあるホテルに滞在すれば、大体その近くにスーパーや薬局があると思います。お国柄、食品の多くが輸入品であることもあってか、若干割高な気もしますが、十分に物資を調達できると思います。大きな駅にはドン・キホーテもありますので、日本の倍近い値段ですが、日本の物も調達することができると思います。

金銭面について

一般的なイメージの通り、ホーカーでの食事と交通費以外の物価は安くなく、レートの関係もあって（2022年8月の窓口での換算レートは1SDG=約110JPY）、高く感じられました。シンガポールでは様々な場所でカード決済が使用できるのに加え、クレジットカードの方が換算レートが良いので、（現金もある程度は必要ですが）カード決済の方が便利でお財布にも優しいと思います。

休日について

私の場合、土日の多くを観光に費やし、国立美術館（旧最高裁判所庁舎）や国立博物館を訪れたり、ローカルの食事を巡ったりしました。さて、勉強はというと（私も渡航前に気になって先輩方に話を伺った点です）、チューターゼミと自主ゼミにそれぞれ1回ずつオンライン参加した他は、あまり手を付けることができていません。在学中受験を考えている身としては可能な限り勉強の時間を確保すべきなのですが、ホテルにいるとはいえ十分に集中することはできませんでした。

4 出発に向けた準備等について

私の場合、当初はオンラインでの実施と聞いていたところ、先方の先生とやり取りをしている中で急遽シンガポールへの渡航が決まり、期末試験期間と並行しながら渡航準備（パスポート取得等）を進めざるを得ませんでした。時間的にも精神的にも試験に及ぶ影響が大きいので、渡航が決まっているのであれば速やかに準備に取り掛かることを強くお勧めします。

ビザの取得について

シンガポールの場合、無給のインターンシップであればビザなしで1カ月間の滞在が可能です（2022年9月現在）。しかし、滞在期間が1カ月近くなると思いますので、念のために（ワーホリ用）ビザ取得を取得することをお勧めします。手続きは全てオンラインで完結しますが、審査応答期間は3週間程度（私の場合は3週間強）であり、追加の資料等を求められるとさらに期間を要するので、可能な限り早くビザ取得の申請をすることをお勧めします。

航空券の手配について

私が渡航した時期は、出発便に関空ーチャンギ便がなかったため、仕方がなく成田ーチャンギ便を手配しました。後者のルートを直行便で運航していたLCCはJAL系のZIPAIRとシンガポール航空系のSCOOTでしたが、出発時刻の関係からZIPAIR便を選択しました。LCCなので特段のサービスはありませんが、座席の間隔は全く狭くなく、快適に過ごすことができました。

帰国便は唯一、チャンギー関空便が運航していたSCOOTの便を選択しました。日系の航空会社ではないので持ち込み可能手荷物のサイズが異なることに注意が必要ですが、出発便のZIPAIR便に劣らず、快適に過ごすことができました。

英語やコモン・ローの知識について

海外インターンシップに参加する上で一番心配になるのは英語だと思います。私が経験した限り、ある程度の日常会話能力と長文を読む力があれば、なんとかなるのではないかと思います。シンガポールの方の英語は中国語訛りであったり、早口であったりしますが、早口に関しては1週間もすれば慣れるのではないかと思います。（屋台の店員さんの中国語訛りはどうにもなりません、、、、）

また、シンガポールは大陸法系ではなく、コモン・ロー体系の国です。コモン・ローに対する知識があるに越したことはないと思いますが、その知識がなければインターンシップにならない、ということはないと感じました。神戸大学の学部生で将来的にこのインターンシップに参加することを希望する方は、単位に余裕があるならば学部段階で「Introduction to Legal English」と「Introduction to Common Law」を履修することをお勧めします。これらの講義で身に着けた英語能力や法律に関する知識はインターンシップの手助けとなると思います。

通信手段の確保について

シンガポール国内の「M1」という大手通信会社のプリペイドSIMを購入しました。他にも、「Star Hub」という通信会社もあるようですが、いずれにしても観光者用プリペイドSIMでは期間が足りませんので、一般用のプリペイドSIMを購入することをお勧めします。私が購入したものは、1カ月60GBで定価28SDG（割引で半額程度に）でした。なお、海外ローミングではなく、現地で調達したSIMを使う場合は、お使いのスマートフォンがSIMフリーであるか確認することをお勧めします。

5 インターンシップに要した費用

全てを細かく記録していた訳ではないので、どこまで正確か分かりませんが、項目別に記載します。

- ・航空券 … 約7万5千円（大学からの補助あり）
- ・ホテル代 … 約30万円
- ・食事代 … 約2万5千円
- ・交通費 … 約2万円
- ・観光代等 … 約1万5千円
- ・SIM代 … 約1千5百円

ホテル代が非常にかさんでいますが、過去の先輩方（コロナ禍以前にインターンシップに参加）のお話を伺うと、シェアハウスやホステルを選択することでかなり宿泊代を押さえることができるようです。コロナが収束しているようであれば、シェアハウス・ホステルをお勧めします。

6 これからインターンに行く人達へのアドバイス等

海外インターンシップに参加を検討中の方へ

海外インターンシップに興味があるのであれば、「なんとかなる」という精神で取りあえず参加希望を提出することをお勧めします。本インターンシップに参加する上で、英語が堪能である必要はなく、大学受験の2次試験を突破できる程度の英語能力があれば十分に対応が可能だと思います（かく言う私も全く堪能ではありません）。また、他大学の法科大学院には通常のエクスターンシップはあっても、このような大学側がアレンジして下さる海外インターンシップの存在は耳にしたことがありませんし（私が知らないだけかもしれませんが）、外国でインターンシップを行う経験は（しかもASEANでのビジネスの中心であるシンガポールならば尚更）非常に貴重かつ、将来のキャリアを考える上でも大きな影響を受ける機会になると思います。

渡航前の準備について

パスポートやビザ等の取得は可能な限り早くから準備することをお勧めします。特にパスポートがなければ航空券の購入ができないため、滞在期間の決定が困難とされます。また、よく言われる話ではありますが、渡航前には可能な限り多くの情報源から情報を収集することをお勧めします。過去に海外インターンシップに参加なさった先輩方のレポートを拝読することも有益ですし、その先輩と直接連絡を取ることはさらに有益です。

7 インターンシップの有用性等に関する評価及び感想

弁護士になるのであればクロスボーダー案件を扱う事務所に入ると共に、将来的には外国の法曹資格の取得を目指したいと考える私にとっては、本インターンシップは学部生の頃から参加を夢見たプログラムでした。外国にある事務所で実際に仕事をする事は滅多に経験することができませんし、ここ数年のコロナ禍を考えると尚更です。今回、私は実際にクライアントの方が使用する契約書や書面の作成・レビューを取り扱わせて頂き、クロスボーダー案件を含めた実務に関する貴重な経験を積むことができました。この経験は私の将来像に少なからず影響を与え、このレポートを書いている現在ではキャリアパスに（嬉しいが非常に悩ましい）迷いが生じています。将来、本当に自分が携わりたい分野を知る・確認する・気づく上で、本インターンシップは非常に有益なもの

となりました。

また、多くの先輩方がレポートで触れていらっしゃる司法試験との関係について、私の代からは在学中受験が始まります。このレポートを書いている時点から約10カ月後には司法試験を受けることを考えると、2Lの夏休みをほとんど全部インターンシップに充てることは在学中受験との関係で痛手となることは否めません（どの程度の影響が生じるのかは、私が1人目の人柱となるでしょう、、、）。しかし、夏休み中にサマークラークに参加してきた周囲と比較しても、私が本インターンシップを通して得た経験に勝る経験をした方はなかなかいらっしゃらないでしょうし、この経験は司法試験の先で大きな糧になると思います。

私のシンガポール渡航準備はかなりのドタバタの中（期末試験期間中）で進み、海外旅行保険の加入に至っては出発便の搭乗時間直前に終了しました。シンガポールオフィスでのインターンシップを受け入れて下さった事務所の皆様、大学の一斉休業が重なる中で必要書類の準備や提出期限に柔軟にかつ迅速に対応して下さい下さった教務の方々、難しいご時世の中で渡航を許可して下さい下さった先生方にこの紙面をお借りして感謝申し上げます。